

4. 3 整備事例

実際に歴史的な道や歴史的資源等を整備した事例を、次頁以降に示す。

類型Ⅰ（宿場の道）の整備事例

①北国街道海野宿（長野県東部町）

車道部を脱色アスファルト舗装、歩道部を天然土と碎石ダストの混合舗装とし、電柱撤去、水路改修等も行っている。



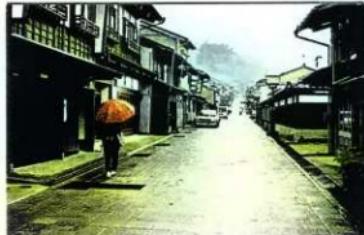
②おはらい町通り（三重県伊勢市）

道路を石畳舗装とし、石畳の色を変えることで車道部と歩道部の区分を明確にした。電線の地中化も行っている。



③諏訪町本通り（富山県八尾町）

御影石を用いた石畳舗装や電線類の地中化を行い、常夜燈をイメージした街路灯や自然石の足元燈等を設置している。



④東海道神奈川宿（神奈川県横浜市）

歩道にレンガブロックを敷き、区のシンボルである亀をデザインした車止め、波の模様をデザインした街路灯等を設置している。



⑤北出丸大通り（福島県会津若松市）

灯籠風の照明灯を整備し、歩道舗装や車止めに自然石を用いて、城下町の石畳の道を再現した。電線の地中化も行っている。



⑥新町通り（大分県杵築市）

沿道の古い建造物との調和を図るため、歩道を石畳舗装とし、電柱の後退や地中化、建築物の制限等を行っている。



類型II（宿場間の道）・類型III（峠越えの道）の整備事例

【類型II】

①岳街道（青森県岩木町）

松並木の保存を図り、併せて散策道路を整備し、自然石植栽枠や木製ベンチ、落ち着いた雰囲気の照明灯を設置している。



②日光街道（埼玉県草加市）

車道を移設して松並木の保存を図るとともに、遊歩道化を行っている。



③橿原神宮東口停車場飛鳥線（奈良県明日香村）

明日香村の歴史・風土にふさわしい散策路として、ポケットパークの整備、歩道の樹脂舗装、植栽整備等を行っている。



④一般国道401号（福島県南郷村）

沿道景観と調和した公園的な雰囲気を醸し出すため、広場を設け、植栽や自然石・平板舗装、照明灯等を整備している。



【類型III】

⑤あまの街道（大阪府大阪狭山市）

尾根を通る旧道を、自然の散策路として整備した。舗装は真砂利舗装で、防護柵には自然石・竹垣を利用している。



⑥東海道金谷坂（静岡県金谷町）

町民一人一石運動で、石畳の道を復元し、ハイキングコースとして活用している。



施設の整備事例

【史跡の整備】

①東海道由比本陣公園（静岡県由比町）

本陣跡の敷地を本陣公園として整備し、表門、石垣、木塀、物見櫓、馬の水飲み場が復元されている。



②羽州街道碇ヶ関御関所（青森県碇ヶ関村）

関所が復元されており、隣接して関所資料館も整備されている。



【茶屋の整備】

③とがのき茶屋（和歌山県中辺路町）

熊野三山への参拝道であった熊野古道の沿道にある茶屋で、今でも当時のたたずまいを残している。



④おせん茶屋（埼玉県草加市）

日光街道草加宿の街角の文化拠点として、木造平屋瓦葺の茶屋と庭園が整備されている。



【ポケットパークの整備】

⑤蔵のあるポケットパーク（岩手県水沢市）

明治中期に建てられた蔵の外観を改修し、内部は1階を和風喫茶店、2階をギャラリーに改造している。



⑥中橋公園（岐阜県高山市）

この場所は、高山陣屋跡、伝統的街並み、朝市等につづくコーナーにあたり、新たな観光の拠点として活用されている。



河川の整備事例

【護岸の整備（倉賀野河岸跡）】

①横手川（秋田県横手市）

護岸に自然石を用い、堤防上から高水敷に降りられるよう階段を設置している。



②新町川（徳島県徳島市）

水辺にテラスを設け、階段、張出部との組み合わせにより、護岸の断面形状に変化をつけている。



③元安川（広島県広島市）

毎年灯籠流しの行われる場所の護岸整備にあたり、水際部にテラスを設けて水辺への近づきやすさを高めている。



④元安川（広島県広島市）

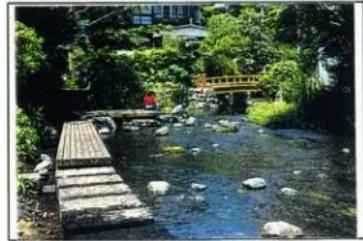
護岸上の公園から水際に降りられる階段を設け、階段の下部には人が佇めるテラスを設けている。



【遊歩道の整備（熊倉集落）】

⑤源兵衛川（静岡県三島市）

自然石とボードウォークを用いて遊歩道を整備することにより、人と川の共存を図っている。



【高水敷の整備（柳瀬の渡し跡）】

⑥

高水敷は一面芝張であり、屋形船の乗り場として活用されている。



5. 1 活用方針

5. 1. 1 活用の考え方

(1) 活用のステップ

「歴史の道」の活用にあたってのステップは、図-5.1.1に示すとおりである。

ステップ1

「歴史の道」を認知してもらう

⇒ 普及活動等
- 「歴史の道」のPRと情報提供

ステップ2

「歴史の道」を理解してもらう

⇒ 学習活動等
- 「歴史の道」を学ぶ場づくり

ステップ3

「歴史の道」を次世代に伝承する

⇒ 交流活動（地域おこし、イベント等）等
- 「歴史の道」を軸とした交流機会づくり

図-5.1.1 活用の考え方

(2) 範囲

「歴史の道」の活用にあたって、その対象として考えられる範囲としては、図-5.1.2に示すように地区、市町村、地域、県、県外の5種類があげられる。

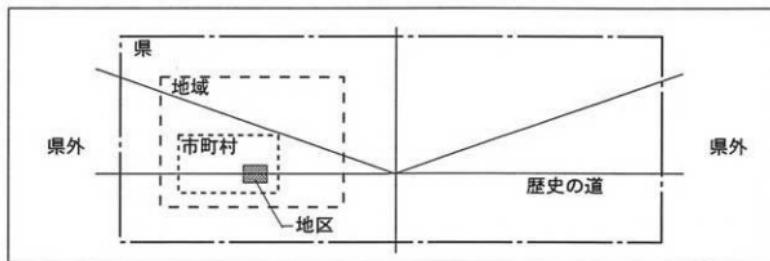


図-5.1.2 活用範囲の考え方

(3) 利用者

「歴史の道」の活用の対象として考えられる利用者としては、以下のものがあげられる。

- 住民（大人：大学生以上）
- 住民（子供：高校生以下）
- 観光客（大人・子供）
- 研究者・有識者等

5. 1. 2 活動内容

「歴史の道」の活用の考え方に基づいて、各ステップ（普及・学習・交流）における具体的な活動内容について検討した。

①普及活動

普及活動は、『「歴史の道」のPRと情報提供』を目的としており、まず、広報誌等を活用して歴史の道が通っている地域の住民に「歴史の道」の存在を認知してもらうことが必要である。また、「歴史の道」事業のPRとして、シンボルマーク・キャラクター等の公募やシンポジウムの開催、パンフレット・ビデオの作成・配布等を行い、県民に事業の内容等について理解してもらうことも必要である。また、県内だけではなく県外から訪れる観光客や歴史について研究している人のための情報提供の場として、歴史資料館・博物館等の整備や、鉄道駅・道の駅等での情報発信、ホームページの開設等も必要である。

②学習活動

学習活動は、『「歴史の道」の学ぶ場づくり』を目的としており、まず、「歴史の道」の沿道地域の住民が自分達の地域の歴史について学ぶことが必要である。そのためには、まず子供のうちから地域の歴史について学ぶことが大切であり、小学校や中学校の歴史の授業等においてもっと地域の歴史について教えることが必要である。また、歴史に関する学習成果発表会等の開催も、学ぶ場づくりの一つとしてあげられる。

また、実際に「歴史の道」の整備や活用の計画策定等を行う場合に、住民参加型のワークショップ等を開催することも、住民が「歴史の道」について学ぶためには有効である。その際には、既存の文化団体等との連携等も必要である。

③交流活動

交流活動は、『「歴史の道」を軸とした交流機会づくり』を目的としており、そのための活動としては、歴史の道を活用したマラソン大会や駅伝、ウォークラリー等のイベントの開催や、郷土料理、郷土芸能等の活用、「歩き・み・ふれる歴史の道事業」の活用等があげられる。また、地域住民が「歴史の道」に積極的に関わる活動として、ボランティア等による「歴史の道」の維持・管理活動等があげられる。

以上の各ステップにおける活動内容と、その対象となる範囲、利用者を整理すると、表-5. 1. 1に示すとおりである。

表-5.1.1 各ステップの活動内容例及びその対象となる範囲、利用者

ステップ	活動内容例	範 囲					利用者			
		地区	市町村	地域	県	都	大人	子供	観光	団体
普及活動	広報誌の活用	○	○	○	○		○	○		
	シンポジウムの開催	○	○	○	○	○	○			○
	シンボルマーク、キャラクター等の公募	○	○	○	○	○	○	○		
	パンフレット・ガイドブック・ビデオ等の作成	○	○	○	○	○	○	○	○	
	歴史資料館、博物館等の整備	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	歴史の道情報センターの設立	○	○	○	○	○			○	○
	ホームページの開設	○	○	○	○	○			○	○
	鉄道駅、道の駅等における情報発信	○	○	○	○	○			○	
	テレフォンガイドの開設	○	○	○	○	○			○	
学習活動	学校教育における題材としての活用	○	○					○		○
	歴史に関する学習成果発表会の開催	○	○					○	○	
	ワークショップの開催 -調査・整備計画の立案等 -景観協定の締結 -まちづくり研究会の発足 等	○	○				○			○
	既存の文化団体等の連携	○	○				○			○
	歴史指導員・ボランティアの発掘・養成・活用	○	○				○			○
交流活動	「歩き・み・ふれる歴史の道事業」の活用	○	○	○	○	○	○	○	○	
	マラソン大会、駅伝等の開催	○	○	○	○	○	○	○	○	
	歴史探訪ルートの設定	○	○	○	○	○	○	○	○	
	歴史ウォークラリーの開催	○	○	○	○	○	○	○	○	
	スタンプラリーの開催	○	○	○	○	○	○	○	○	
	歴史絵画展の開催	○	○	○	○	○	○	○	○	
	郷土芸能、郷土料理等の復活	○	○	○	○	○	○	○	○	
	ボランティア等による歴史の道の維持・管理活動	○					○	○		

5. 2 活用計画

5. 2. 1 活用体制

「歴史の道」の活用にあたって、まずその活用体制について検討した。活用体制としては、図-5.2.1のようなものが考えられ、同図に示すように、地域の既存組織等による「歴史の道活用研究会」を発足させ、同研究会の中で様々な検討を行いつつ、普及活動や学習活動等に関する企画・立案を行い、地域と一体となって実施していくことが望まれる。

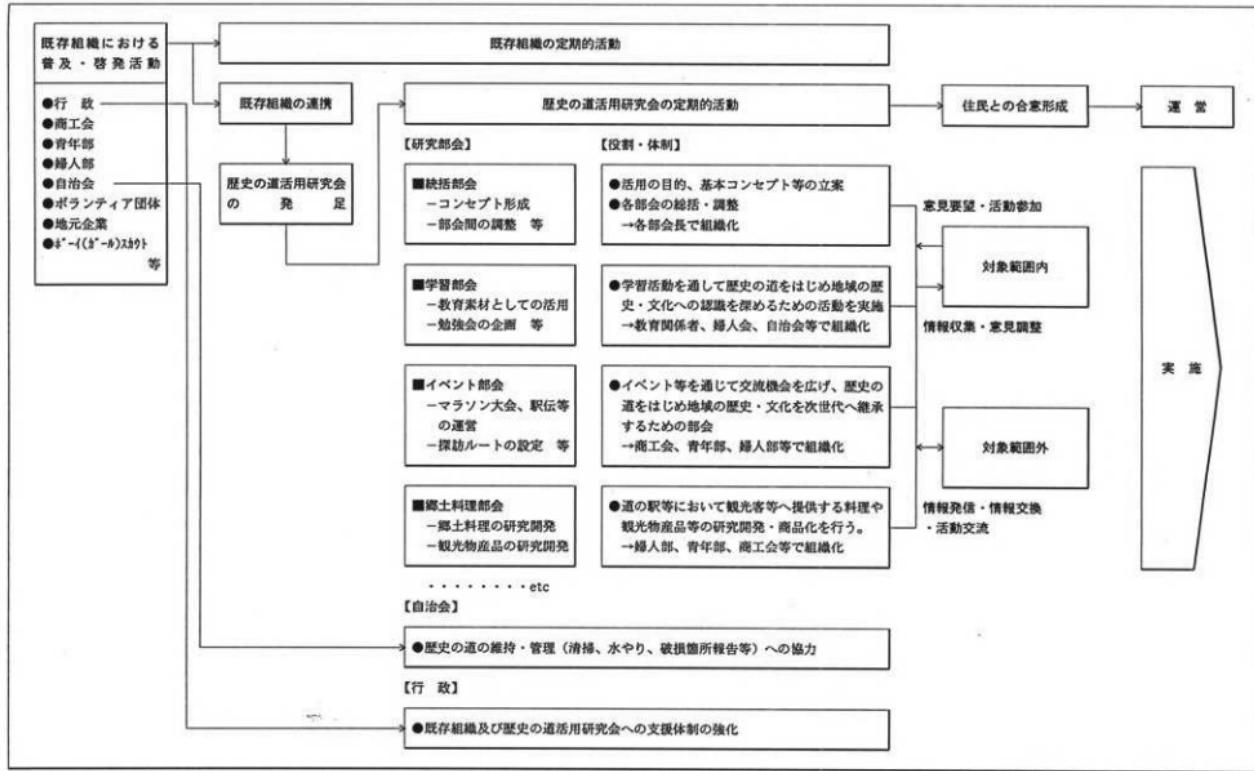


図-5.2.1 活用体制の例

5. 2. 2 路線別の活用可能資源

ここでは、「歴史の道」の活用方針に基づいて、各路線において具体的に活用できると思われる資源等を整理した。

表-5.2.1 路線別の活用可能資源例

	普及活動 -「歴史の道」のPRと 情報提供	学習活動 -「歴史の道」を学ぶ場 づくり	交流活動 -「歴史の道」を軸とし た交流機会づくり
十石街道 新町 藤岡市 鬼石町 万場町 中里村 上野村	<ul style="list-style-type: none"> ○道の駅における情報発信 <ul style="list-style-type: none"> -上州おにし（駿賀） -上野（上附） ○鉄道駅における情報発信 <ul style="list-style-type: none"> -群馬藤岡駅（駿賀） ○歴史資料館等の整備 <ul style="list-style-type: none"> -麻生集落（五賀） -中里村恐竜ワールド（中里） 	<ul style="list-style-type: none"> ○街並み景観整備等への住民参加 <ul style="list-style-type: none"> -麻生集落（五賀） -白井宿（上附）等 	<ul style="list-style-type: none"> ○南毛霊場三十三觀音札所めぐりの活用（駿賀～上附）
下仁田道 藤岡市 吉井町 甘楽町 富岡市 下仁田町 南牧村	<ul style="list-style-type: none"> ○鉄道駅における情報発信 <ul style="list-style-type: none"> -吉井駅（駿賀） -上州福島駅（駿賀） -上州富岡駅（駿賀） -下仁田駅（上附）等 ○歴史資料館等の整備 <ul style="list-style-type: none"> -白石丘陵公園（駿賀） -砥沢宿（駿賀）等 	<ul style="list-style-type: none"> ○文化団体等の連携 <ul style="list-style-type: none"> -福島郷土史会（駿賀） -曾木歴史研究会（駿賀） -郷土研究会（駿賀）等 ○街並み景観整備等への住民参加 <ul style="list-style-type: none"> -砥沢宿（駿賀）等 	<ul style="list-style-type: none"> ○散策ルートの活用 <ul style="list-style-type: none"> -ふるさとふれあいの道 -水と緑のネットワーク（富岡市） ○峠道のハイキングコース化 <ul style="list-style-type: none"> -余地峠（駿賀）
中山道 新町 高崎市 安中市 松井田町	<ul style="list-style-type: none"> ○中山道サミットの開催 ○鉄道駅における情報発信 <ul style="list-style-type: none"> -新町駅（新町） -高崎駅（高崎） -安中駅（安中） -横川駅（駿賀）等 	<ul style="list-style-type: none"> ○文化団体等の連携 <ul style="list-style-type: none"> -西毛文化史学会（高崎） -秋間史跡保存会（安中） -ふるさと学習の会（駿賀）等 ○街並み景観整備等への住民参加 <ul style="list-style-type: none"> -坂本宿（駿賀）等 	<ul style="list-style-type: none"> ○散策ルートの活用 <ul style="list-style-type: none"> -碓氷ルネサンス・トレインル（安中） ○峠道のハイキングコース化 <ul style="list-style-type: none"> -碓氷峠（駿賀） ○杉並木の維持・管理活動（安中） ○安中遠足マラソン（安中）
信州街道 高崎市 棟名町 倉渕村 吾妻町 長野原町 嬬恋村	<ul style="list-style-type: none"> ○鉄道駅における情報発信 <ul style="list-style-type: none"> -大前駅（駿賀）等 ○歴史資料館の整備 <ul style="list-style-type: none"> -大戸宿（駿賀） -狩宿宿（駿賀） -鎌原宿（駿賀） 	<ul style="list-style-type: none"> ○文化団体等の連携 <ul style="list-style-type: none"> -棟名町文化協議会（駿賀）等 ○街並み景観整備等への住民参加 <ul style="list-style-type: none"> -鎌原宿（駿賀） -大笛宿（”）等 	<ul style="list-style-type: none"> ○峠道のハイキングコース化 <ul style="list-style-type: none"> -万騎峠（吾妻・駿賀） -鳥居峠（駿賀）

5. 3 活用事例

実際に歴史的な道や歴史的資源等を活用した事例を以下に示す。

①普及活動

活動内容	シンポジウムの開催
名 称	神奈川東海道ルネッサンスシンポジウム
主 体	神奈川県、横浜市、川崎市、藤沢市、茅ヶ崎市、平塚市、大磯町、二宮町、小田原市、箱根町
概 要	<p>東海道ルネッサンス事業は、東海道制定400周年に当たる西暦2001年を目標に、歴史的に大きな役割を果たしてきた東海道を中心に、建設省、県、沿道9市町村により、情報発信や歴史的資源の保存・活用を通じて、豊かな道づくり・まちづくりを進めているものである。</p> <p>当シンポジウムでは、ルネッサンス事業のPRを兼ね、「新たな旅と道へのまなざし」をテーマに、講演とパネルディスカッションが行われている。</p> <p>なお、シンポジウムの運営は、各市町村と県、国で実行委員会を組織し運営するものとしている。</p>

[第1回小田原大会の概要]

開 催 日：平成8年11月16日（土）

会 場：県立生命の星・地球博物館

主 催：神奈川東海道ルネッサンス推進協議会

主な内容：①小田原北条太鼓の演奏（小田原北条太鼓の会）

②基調講演「歴史と現代に見る旅と道」（嵐山光三郎氏）

③パネルディスカッション

「東海道の旅、今昔……旅と道の関わり合いを探る」

司会）青山佳世氏

パネラー）田中優子氏、齊藤司氏、岩崎宗純氏、三宅篤氏

(プログラム)



活動内容	ホームページの開設
名 称	中仙道
主 体	
概 要	<p>個人が開設しているホームページで、中山道の歴史や名前の由来等について紹介している。</p> <p>また、バーチャル中山道と称して、中山道沿いの風景、史跡等を写真を交えながら絵地図の形で紹介している。バーチャル中山道は第1巻から第7巻まであり、群馬県（上野国）は第3巻である。</p>

(バーチャル中山道の一部)



活動内容	歴史資料館、博物館等の整備
名 称	二川宿本陣資料館
主 体	愛知県豊橋市
概 要	<p>東海道の旧二川宿本陣跡には、東土蔵、西土蔵、母屋、玄関棟、表門が残っており、昭和63年より改修復元工事を行い、江戸時代末期の姿が復元されている。本陣の背後には、土蔵風の資料館を併設し、本陣と共に公開されている。</p> 

②学習活動

活動内容	住民の参加
名 称	平成の道普請
主 体	静岡県金谷町
概 要	<p>金谷町では、東海道24番目の宿場町として栄えた金谷宿に照準を合わせた街道まちづくり事業に取り組むこととし、その事業成功のステップとして、住民の理解とその裏付けを持った住民参加を図るために、行政が取り組む事業についてアイディア、意見などを求める「まちづくり100人会議」を公募により組織化した。</p> <p>金谷坂の石畳の復元にあたっては、石畳の材料である山石を入手するために、町民皆で石の収集を行おうと「町民一人一石運動」を展開した。農家は茶畠の改植によって出た石や、農地の石積み工事を行うためにストックしていた石の提供を申し出てくれた。また、一般住民は、自宅の庭先にあった石や家の建て替えにより古い家を取り壊した際にその家の土台であった石を好意的に提供してくれた。こうして提供された3万5千個の石と、公共工事によって出た3万6千個の石、合計約7万個の石を集め、「平成の道普請」が行われた。工事は600名の町民参加によって始まり、最終的には中学生による卒業記念道普請によって完成した。</p> <p>なお、当事業は東海道ルネッサンス（静岡県）の取り組みの一つとしても位置づけられている。</p>



活動内容	歴史指導員・ボランティアの発掘・養成・活用
名 称	シルバーガイドの養成
主 体	群馬県尾島町
概 要	<p>同町は、中世から新田氏を中心に栄え、その後「徳川氏発祥の地」として多くの文化財を有し、「歴史と文化を誇る町」として観光客も多い。そこで、同町では、土地の歴史にくわしいお年寄りの知識や経験を活用しようと、町の老人クラブ員を対象に観光ガイドの養成を行っている。</p> <p>ガイドの主な仕事は次のとおりである。</p> <ul style="list-style-type: none"> ①歴史公園周辺の文化財や言い伝えなどの簡単な説明と案内 ②歴史資料館隣接地に建てられた休憩所での、観光客への湯茶接待 ③同資料館前庭の一部管理

③交流活動

活動内容	「歩き・み・ふれる歴史の道事業」の活用
名 称	歩き・み・ふれる歴史の道中央大会
主 体	栃木県宇都宮市、今市市
概 要	<p>「歩き・み・ふれる歴史の道事業」は、地域の環境を含めた文化財の保護をより一層進めるとともに、住民の地域の歴史・文化に対する理解の一助となることを目的として、全国各地で古道を歩き、地域の文化財にふれる事業である。</p> <p>事業の主催は、各都道府県、教育委員会、市町村教育委員会関係者等により構成される「実行委員会」であり、日本歩け歩け協会や日本万歩クラブ、日本レクリエーション協会等の協力を得て行われている。</p> <p>平成5年度は全国110箇所で約2万人、6年度は116箇所で約2万7千人の規模で実施され、平成7年度以降は、中央大会とブロック大会が開催されるようになっている。</p> <p>(平成8年度中央大会の概要)</p> <p>会 場：栃木県宇都宮市、今市市 大会会場：宇都宮市大谷平和観音前公園 日 程：平成8年5月25日（土）、26日（日）の2日間 参加人数：約8,000人 コース：7～30kmの6コースを設定</p>

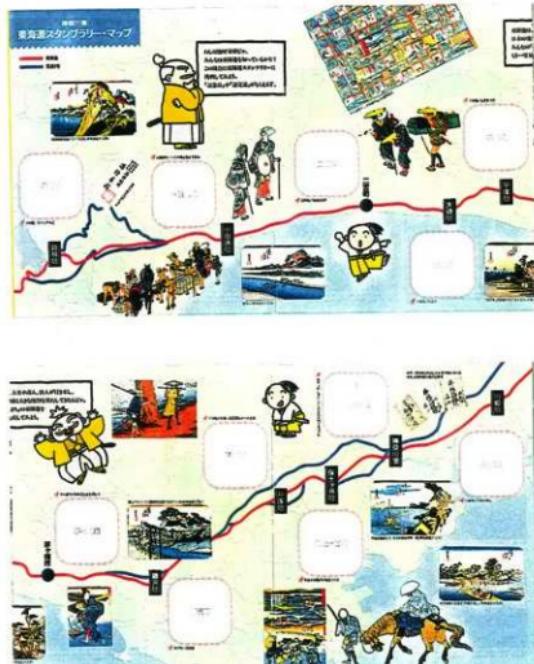
活動内容	マラソン大会、駅伝等の開催
名 称	安政遠足
主 体	群馬県安中市
概 要	<p>同市は、日本マラソン発祥の地と称し、「安政遠足」（あんせいとうあし）なるマラソン大会を行っている。</p> <p>安政2年、時の安中藩主板倉勝明公が、藩士の心身の鍛錬を目的に、安中城から碓氷峠の熊野神社まで7里余の道を走らせ、これを「御城内御諸士御遠足」と呼んだ。この記録が碓氷峠の茶屋で発見されて以来、同市は日本マラソン発祥の地を自認している。</p> <p>マラソンは、市内外より中学生以上の出場者を募り、毎年5月に開催されている。スタートは往時と同じ安中城跡（現文化センター）で、碓氷峠の熊野神社までの29.17kmを走る。このマラソンのユニークな点は、参加者が武者姿を始めとする江戸風俗で装って走ることで、別名サムライマラソンと呼ばれている。</p>

活動内容	歴史ウォークラリーの開催
名 称	山辺の里道祖神めぐり
主 体	長野県松本市
概 要	長野県松本市の美ヶ原温泉では、平成7年5月、旅館協同組合の加盟旅館の宿泊客を対象に、「山辺の里道祖神めぐり」を行った。同年6月までの毎日曜日午前6時から1時間、温泉地内の道祖神をめぐり、専門家のガイドが開設するシステムで、参加費は無料、参加者には資料と道祖神の拓本がプレゼントされた。

活動内容	絵画展の開催
名 称	絵のまち尾道四季展
主 体	広島県尾道市
概 要	<p>広島県尾道市では、尾道を題材とした絵を全国から募集し、尾道市の商店街を展示会場とした公募作品展示会を行っており、昭和58年度から隔年で2月から3月にかけて実施されている。</p> <p>一般公募については、優秀作品にグランプリ、金、銀、銅の各賞を贈るとともに、作品をそれぞれ300万円、100万円、80万円、50万円で買い上げている。審査とは別に、応募作品に販売額を付けてもらい、賞にもれた分については、鑑賞者の中から希望があった場合、販売も請け負うようにしている。</p> <p>街の活性化のために企画されたこの四季展の最大の特徴は、地元商店街の協力により、全作品をショーウィンドウなどに展示するところにあり、期間中は商店街全体が美術館となる。</p>

活動内容	スタンプラリーの開催
名 称	東海道スタンプラリー
主 体	神奈川県、横浜市、川崎市、藤沢市、茅ヶ崎市、平塚市、大磯町、二宮町、小田原市、箱根町
概 要	<p>東海道ルネッサンス事業の取り組みの一つとして、一般の参加誘導とPR効果を目的として、旧宿場を中心に設定された散策コースを歩くスタンプラリーが行われた。スタンプ設置箇所は全部で11箇所とし、11箇所中6カ所以上のスタンプを集められた参加者には記念品としてTシャツをプレゼントした。またさらに、11箇所全てのスタンプを集めた参加者には、スタンプラリー完走認定証の入ったフォトスタンドをプレゼントした。</p>

(スタンプラリーマップ)



参考資料

参考資料－1	観光資源の概要	-----	144
参考資料－2	ヒアリング調査の概要	-----	158
参考資料－3	「歴史の道」現況特性図	-----	159

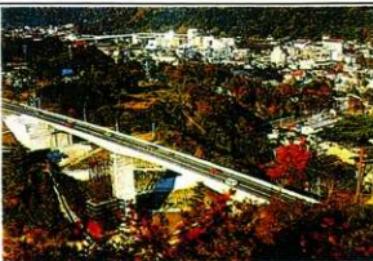
参考資料－1 観光資源の概要

「2. 3. 3 観光資源」で示した群馬県内の主な観光資源について、その概要及び写真を次頁以降に整理した。

(1) 温泉

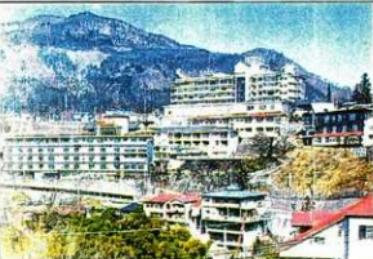
1. 水上温泉

谷川岳を望む、利根川水上峡沿いに開けた温泉町。湯舟につかりながら、または散歩しながら、ライトアップされた利根川を眺める楽しみは、水上温泉ならではのものである。



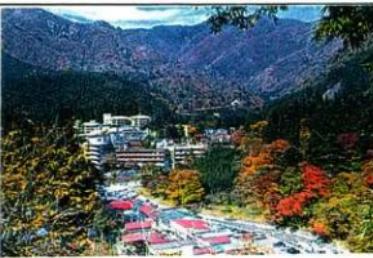
2. 猿ヶ京温泉

上杉謙信が命名したとされている温泉街。ダム建設のために昭和33年に現在の場所に移動した。三国街道を旅する人に愛され、その軌跡が「三国路紀行文学館」に見られる。



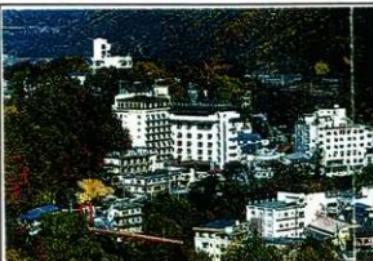
3. 四万温泉

四万川の渓流にそって、落ち着いた雰囲気の温泉宿が並ぶ。美しい景色とともに、四万もの病に効くということから、多くの湯治客で1000年もの昔から賑わっていた。



4. 老神温泉

片品渓谷の景観を挟んで軒を連ね、美しい吊り橋が趣を添えている。また、尾瀬、日光方面への周遊観光の拠点として賑わっている。



5. 草津温泉

海拔1200mにある日本有数の温泉街。草津全体で毎分3万7千リットルもの湯量を誇り、近代的設備が整う一方、「時間湯」や「湯もみ」など草津独自の伝統も残っている。



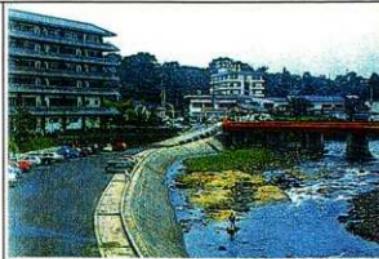
6. 伊香保温泉

400年以上の歴史を誇る約360段の石段の両脇には、旅館やみやげ屋が並び伊香保温泉ならではの温泉情緒をかもしだして。徳富蘆花などの文豪がこよなく愛した名湯である。



7. 磯辺温泉

天明の浅間山の大噴火で湯の量が増え、碓氷川畔の温泉街として栄えている。美人の湯、胃腸病に良い温泉とされている。「舌切り雀」発祥の地としても知られている。



8. やぶ塚温泉

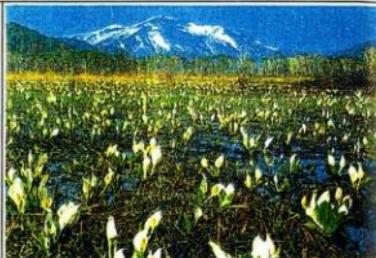
江戸時代を体験できる「三日月村」や「スネークセンター」などの観光施設、古墳や名所旧跡に恵まれた観光地であり、見所、遊び所いっぱいの、楽しい温泉の町である。



(2) 自然

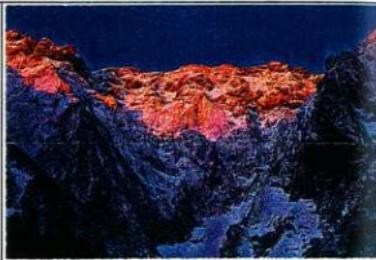
1. 尾瀬

群馬・新潟・福島の三県にまたがり、尾瀬ヶ原と尾瀬沼を中心に構成されている。東西6Kmにおよぶ日本最大の高層湿原。尾瀬ヶ原の木道を歩くと、春はミズバショウ、秋は紅葉と、四季の美しさを楽しむことができる。



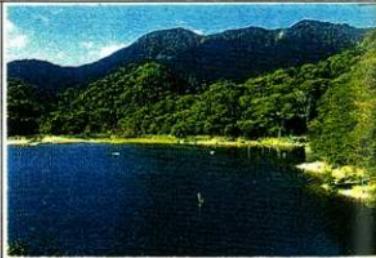
2. 谷川岳

新潟との県境にそびえる岩山。ロッククライミングのメッカであり、とくに一ノ倉沢は日本有数の岩場である。標高1500mの天神平までロープウェイで登ることができる。



3. 丸沼・菅沼

日光白根山の噴火によりできた堰止湖で、深いブルーの湖水をたたえている。日光に通じる国道120号線沿いにあり、夏でも涼しく菅沼湖畔にはキャンプ場が設けられている。丸沼湖畔には温泉宿もある。



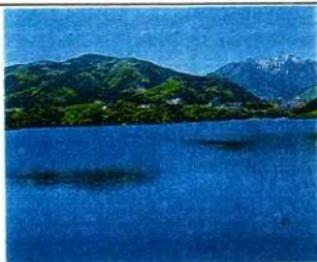
4. 野反湖

六合村北端に位置する高原の湖。周囲12kmの小さな湖で、なだらかな草原が湖畔に広がっている。ハイキングコースも幾つかあり、春から夏にはレンゲツツジなど、約3000種の高山植物の群生と出会うことができる。



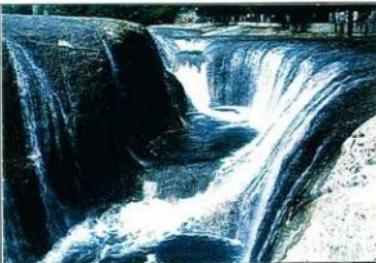
5. 赤谷湖

相俣ダム建設によって生まれた人造湖。谷川連峰を背にした景観は美しく、ボート遊びや釣りを楽しむことができる。付近には自転車の王国「群馬サイクルスポーツセンター」や竹細工やこんにゃくづくりが体験できる「たくみの里」があり、湖畔の猿ヶ京温泉とともに三国路観光のメッカとなっている。



6. 吹割の滝

老神温泉の北方、片品川の上流、奇岩のおりなす渓谷である「吹割渓」の一番奥に位置している。高さ7m、幅30m余りの豪快な滝が落ちる様は、まさに圧巻。また上流には左甚五郎伝説の残る浮島観音がある。



7. 白根山

山頂一帯は荒涼とした岩原で火口付近には神秘的な色彩の温泉をたたえる湯釜をはじめ潤釜、水釜の三つの火口湖がある。草津から志賀高原へ抜ける山岳ルートが整備され、ロープウェイも走っている。



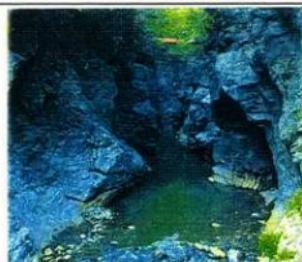
8. 暮坂峠

沢渡温泉と草津を結ぶ峠である。カラマツ畑に囲まれ、若林牧水の「枯野の旅」の詩碑が立っている。峠から六合村や花敷温泉へぬける道は、牧水コースとして親しまれている。



9. 吾妻渓谷

吾妻町の西端、川原湯温泉から徒歩10分のところ、吾妻川の長野原町境の一帯約4 kmにおよぶ渓谷である。遊歩道が設けられており、その見事な景観は「関東の耶馬渓」と称され、両眼の断崖、渓流、滝などを楽しむことができる。



10. 赤城山

榛名山、妙義山とともに上毛三山の一つである。頂上付近には、カルデラ湖の大沼、小沼があり、キャンプからスケートまで、四季を通じて賑わっている。隣接する湿原、覚満淵にはミズバショウなどが咲き乱れ、小尾瀬とも呼ばれている。



11. 榛名山

火山噴火によってできた榛名湖を榛名富士、烏帽子岳などの山々が取り囲んでいる。ユウスゲやレンゲツツジの群落に心なごませながら、湖畔を中心としたサイクリング・釣り・ハイキングなどのアウトドアレジャーを満喫することができる。



12. 浅間山

群馬・長野県境に高々と噴煙を上げる標高2568mの活火山。北腹には溶岩が凝結した奇景「鬼押出し」が広がり、その麓には浅間山ゆかりの鎌原觀音堂がある。



13. 妙義山

奇岩怪石に富む名峰であり、日本三大奇勝に数えられている。太古からの風化浸食作用による造形美、ローソク岩、大砲岩、石門などの奇怪な風景が観賞できる。ハイキングコースもよく整備されている。



14. 不二洞

約1200年前の平安初期の発見と伝えられる延長2.2kmにおよぶ鍾乳洞「闇間の金剛杖」や「雲上の景」や「百羅漢」などの名称が付いた奇觀45ヶ所巡りを楽しむことができる。



(3) 文化施設

1. 遂葉山弥勒寺

沼田市外地から北方へ16km、遂葉山の南原にある曹洞宗の古刹。ほぼ全山を占める6万6000m²の境内には顔の長さ5.5m、鼻の長さ2.7mという大天狗面がおかれ、天狗信仰の寺として知られている。



2. 水沢観音

板東33カ所札所の第16番、水沢観音の名で親しまれている水沢寺。開基は古く、推古天皇の時代とされている。壮大な本堂、六角堂、山門などが並び、参道には名物「水沢うどん」の店が軒を連ねてる。



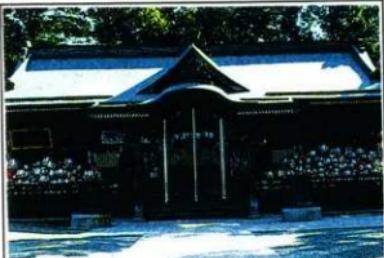
3. 桐生天満宮

およそ1800年ほど前の景行天皇の時代に創建されたと伝えられている古社。寛政年間(1789~1801)に再建されたと伝えられる切妻破風造りの本殿が特に美しく、その各所に見事な彫刻が施されている。



4. 小林山達磨寺

徳川光圀の開基と伝えられる黄檗宗の寺院。達磨大師が本尊で、毎年1月6、7日には有名なだるま市が開かれ、毎年70万人近くの参拝客で夜通し賑わうようである。



5. 白衣観音

昭和11年に建立された高さ41.8mの巨大な観音像である。高崎市のシンボル的な存在で、周辺には野鳥の森や高崎カッパビアがあり、市民の憩いの場として愛されている。



6. 貢前神社

大和時代の創建とされ、武神・經淨主神と農耕・機織の神・比売大神を祀っている。3代将軍家光、5代将軍綱吉により一部再建され江戸期建造物の荘厳な美しさを留めている。



7. 大光院

徳川家康が新田義重の菩提を弔う目的で建立した寺。「子育て呑龍様」の名で親しまれている。9月7~9日は開山忌となっており、安産・子育て祈願の参拝客で賑わっている。



8. 天神山古墳

5世紀中期の築造と推定される前方後円墳。太田市街地の東にあり、報土の全長210m、この外側に周堤が築かれ、それを含めると全長320m余りに達し、東日本最大の規模を誇っている。この天神山古墳と国道を隔てた東側には女体山古墳が位置し、ともに国の史跡に指定されている。



9. 東照宮

徳川家光が日光東照宮の造替を実施した時に旧社殿を移転させたものである。本殿、唐門が国指定重要文化財となっており、いずれも日光山から移されてきたものである。



10. 茂林寺

童話「ぶんぶく茶釜」の寺として知られる禅寺。実際に寺宝として茶釜が保存され、参道には22体のユーモラスなタヌキ像が並んでいる。茂林寺沼には珍しい植物が見られ、その北側には野鳥の森がある。



(4) レジャー・観光施設

1. 武尊牧場

武尊山東麓に広がる高原に設けられた片品村営の牧場。6月中旬にはレンゲツツジが見事なまでに咲き乱れる。

2. 群馬サイクルスポーツセンター

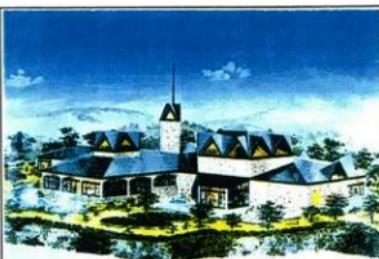
高山植物の宝庫大峰山の中腹にあり、日本で唯一の公認6Kmサーキットのほか、大人から子供まで誰でも楽しめる施設があり、さらなる「自転車王国」となっている。

3. 草津熱帯園

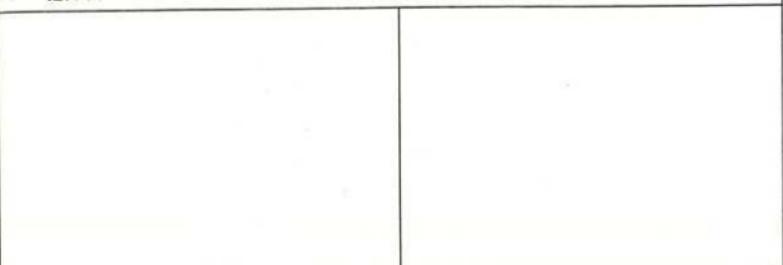
草津熱帯園は総面積2万m²高さ15mという規模をほこっている、日本でも珍しい本格的なものである。大ドームの中には、あらゆる熱帯植物とニシキヘビ、コブラ、イグアナ、ゾウガメなどの動物600頭が自然のままに飼育されている。

4. 大理石村(ロックハート城)

石文化とのふれあいをテーマにギャラリーや資料館、売店や茶房が設置されている。資料館には、日本最大級のいん石、世界最高峰の石などが展示されている。施設内のアトリエでは、大理石の加工も体験できる。また、園内にはスコットランドの古城「ロックハート城」が復元されており、ヨーロッパの歴史と石文化に直接触れることができる。



5. 軽井沢プリンスランド



6. 浅間山火山博物館

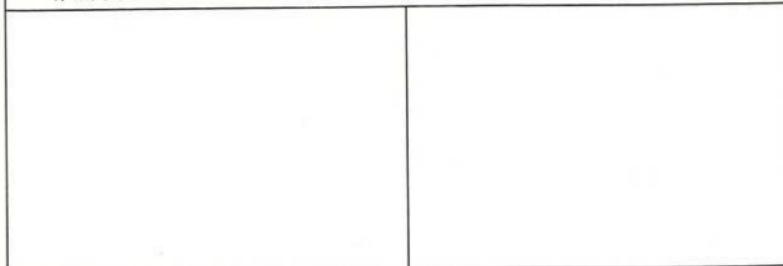
鬼押出しの溶岩地帯に建てられた浅間園は、この奇勝を一望できるとともに、園内には我が国最大の火山博物館があり、浅間山の火口をリアルタイム映像で見れる、ゆかいなキャラクターロボット2台が浅間の由来などをわかりやすく説明してくれる設備などがある。



7. 伊香保グリーン牧場

スポーツ広場・アーチェリー・パターゴルフ・ウェスタンタウン・こども遊園地・こども牧場と施設が多く、しばりたての牛乳と自家製アイスクリームと自家産牛肉・バーべキューが楽しめる。また、場内には現代美術の展示館、ハラ・ミュージアム・アークがある。

8. 赤城高原牧場(ドイツ村)



9. ぐんまフラワーパーク

四季折々の美しさを見せる赤城山麓の自然の中で、花と緑に親しみ、憩い、自然とともにいきることの楽しさが満喫できる。大花壇、鑑賞温室、フラワーホールなどもあり、大人から子供まで自由に遊べる空間が創設されている。



10. 敷島公園

前橋市内を流れる利根川と広瀬川に挟まれた広大な敷地を誇る公園。中央に200種、2000株ものバラが植えられている。敷地内には萩原朔太郎記念館もあり、一日楽しめる前橋観光のメインスポットである。



11. 桐生が岡公園

花の名所でもある広々とした桐生が岡公園。園内には動物園があり、象やライオン、鳥や小動物たち80種類以上が、また、水族館もあり子供たちの人気者になっている。隣接の遊園地とパックで週末には家族連れでいつもにぎわっている。



12. 群馬サファリパーク

世界中から集まった60種類、1600頭もの動物が自然のまま飼育されている野生動物園である。

13. 高崎カッパビア

--	--

14. 華蔵寺公園

緑と花の公園として知られ、桜、しやくなげ、つつじをはじめ、花菖蒲、あじさい、萩などが四季の彩りを見せている。隣接する遊園地には水上ジェットコースターなどもあり、家族連れで賑わっている。



--	--

--	--